

あおり

CONTENTS | 目次

特集 ▶ P2-5

人口減少克服 ～ポイントは、「経済を回す」～

旬を食べよう。あおり食材で簡単ヘルシークッキング/
青森さらりイッピン 私が出会った青森のイッピン ▶ P6

青森の未来に全力! 県職員最前線レポート「いいぞ! 「木」の地産地消!」/
青森県量子科学センターが10月1日に開設します! /
参加事業所募集中! 10月はスマートムーブ通勤月間 ▶ P7

申吾のほっとコラム/あおりインフォメーション ▶ P8



日本モダニズム建築の 礎を築いた前川國男

日本の近代建築の発展に大きく貢献した建築家・前川國男。弘前には前川の処女作から晩年の作品まで8つの建築物が現存していますが、今も全て現役で活用され人々の暮らしに寄り添っています。

東京帝国大学を卒業した前川は、パリのル・コルビュジエのもとで2年間建築を学びました。前川の母親は弘前出身で、留学中に交流のあったフランス大使館付武官・木村隆三も弘前出身だったことから、弘前との縁が生まれます。帰国後、木村からの依頼で設計したのが、前川の処女作となる「木村産業研究所」です。フランス製の窓、吹き抜けの天井を彩る鮮やかな赤、モザイクタイルの白とブルー。竣工から85年経った今も、色あせることのない魅力を放っています。2階の「建築家前川國男プロ博物館」には、前川作品の模型や竣工当時のパネル写真などが展示されています。

弘前には、このほか「弘前中央高等学校講堂」、「弘前市庁舎」、「弘前市民会館」、「弘前市立病院」、「弘前市立博物館」、「弘前市緑の相談所」、「弘前市斎場」という前川作品があります。写真の「弘前市民会館」は、「演劇や音楽を鑑賞した後、余韻を味わえる空間に」という前川の想いが随所に込められた作品。物語の始まりを予感させてくれる階段、2階ホールは銅管を使ったシャンデリアがきらめき、人々を優しくつなぐ空間になっています。昨年、ユネスコの世界文化遺産に登録され、弟子の前川作品にも注目が集まっている今、前川建築群を巡ってみませんか。

▼関連記事はP6で

人口減少克服のポイントは、「経済を回す」

県では、地域において魅力ある仕事をつくり、多様な雇用を生み出し、そこで生まれた収入を地域経済の中でしっかりと回していく、という「経済を回す」取組を進め、人口が減少しても安心して暮らせる青森県づくりを目指しています。



「経済を回す」仕組みをつくり、
安心して暮らせる
青森県を目指します！



ご案内役は…私、企画調整課 石川邦彦です！

着実に成果を上げている「経済を回す」取組

人口減少が進む中で、地域経済の活性化を図るためには、本県が持つ資源を県外・海外へ積極的に売り込み、経済を回していくことが大変重要です。

そこで、県では…

その1 本県の豊富な農林水産資源を生かし、高品質な県産品づくりを進めること

その2 高品質な県産品を国内、海外へ向けて販売していくこと

その3 県外・海外から多くの観光客の方々に本県を訪れていただくこと

その4 新しい産業・事業の創出を進めること

など、「経済を回す」ための取組を重点的に進めており、近年、各分野でその成果が着実に上がっています。

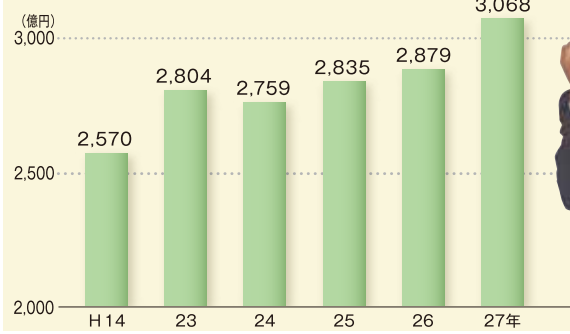
その1

消費者に評価される安全・安心で高品質な県産品づくり

本県には、世界に誇れる豊富な農林水産資源とそれを支えるきれいな水や健康な土などの恵まれた生産基盤があり、それらの強みを生かして、安全・安心で高品質な県産品づくりを進めています。平成27年の農業産出額は19年ぶりに3千億円を突破し、12年連続で東北トップを堅持するとともに、平成14年から平成27年までの農業産出額の伸び率は約19%で全国1位となっています。

中でも、青森米「青天の霹靂」は、食味ランキング最高評価「特A」を、参考品種を含めて3年連続で取得し、大きな期待を集めています。

■農業産出額の推移



資料：農林水産省「農林水産統計年報」



消費低迷や生産者不足でも産出額が増加する力強さあり

果樹では、本県オリジナルの高付加価値品種である、さくらんぼの新品種「ジュノハート」を開発し、平成32年度の本格デビューに向け、生産・流通・販売関係者とブランド化協議会を立ち上げ、生産・販売対策を進めていくこととしています。

本県には「りんご」や「なごいも」、「はたて」などの国内外で高い評価を得ている農林水産品が数多くあります。これらの生産体制を維持・強化しながら、高品質な県産農林水産品を安定的に生産し、農林水産業の成長産業化を一層進めています。

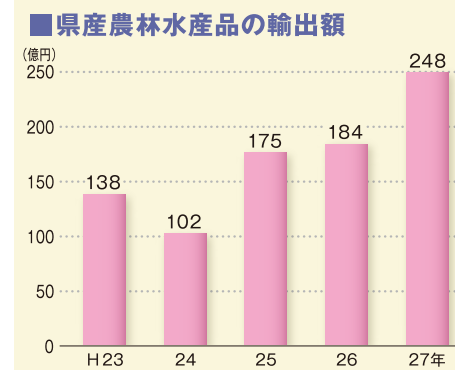




県では、安全・安心で優れた県産農林水産物やその加工品を生産し、売り込んでいく「攻めの農林水産業」を平成16年度からスタートさせ、10年以上にわたって地道に取組を進めてきました。その結果、平成18年度に約150億円だった国内大手量販店の県産農林水産品の通常取引額が、平成28年度には約270億円へ拡大しています。また、県産農林水産品の輸出も好調に伸び、平成27年は過去最高額の約250億円を記録しています。

その2
国内外を飛び回る
県産品の販路開拓

新たな物流体制の構築などで徐々に輸出環境が充実



資料：JETRO青森「青森県の貿易」

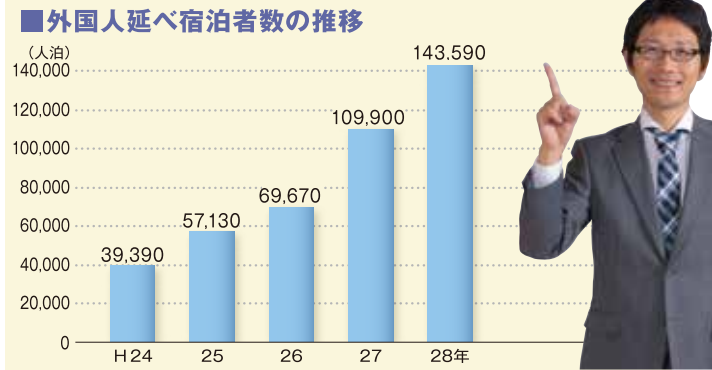
累計で400回以上となる知事のトップセールスや大手量販店・スーパー等での県産品フェアなどの地道な営業活動を積み重ね、その活動で培った人脈やネットワークを生かして販路開拓を進めています。

海外への販路開拓では、トップセールスに加え、東南アジアの日本食レストラン等へ食材を販売する現地輸入業者への商品提案など企業支援も行っています。中でも、注目されているのは、ヤマト運輸株式会社との連携により実施している新流通サービス「A+Premium（エープレミアム）」を活用した新たな販路の開拓です。アジア圏へ最短翌日配送が可能な「A+Premium」の強みを最大限に生かして、他国産との差別化と、輸出先との信頼関係の強化に取り組み、さらなる販路開拓を進めています。

その3
訪日外国人の増加など
好機を踏まえた交流人口の拡大

人口減少が進む中、国内外から多くの観光客を誘致し、交流人口を拡大していくことは、「経済を回す」上で大変重要です。近年、我が国を訪れる外国人観光客が大幅に増加していることから、県では、これを大きなチャンスと捉え、外国人観光客の誘致に向けて、海外でのトップセールス、国際定期便・チャーター便の誘致、戦略的な情報発信などに重点的に取り組んできました。

この先も
東京オリンピック・
パラリンピックなどの
好機あり



※従業員数10人以上の施設が対象。資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

特に、北海道新幹線開業により、本県と道南地域との時間距離が大幅に短縮された



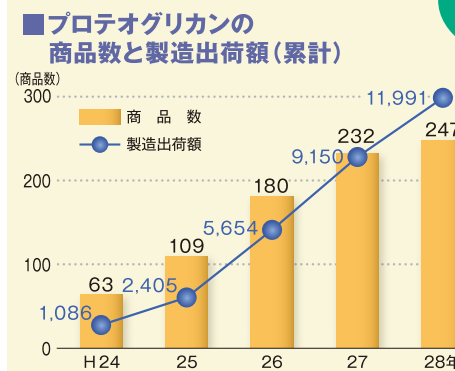
ことから、本県と道南地域を一つの旅行エリアとしてPRし、陸路、空路、海路を組み合わせた「立体観光」を推進してきたところだ。

その結果、台湾などからの国際チャーター便の増加、中国・天津との国際定期路線開設などもあり、本県に宿泊する外国人観光客の数は年々増加しており、平成28年は、前年比31%増となる過去最高の14万3590人を記録しました。これは、東北では、伸び率で福島県に次いで第2位、宿泊者数でも宮城県に次いで第2位の数字です。

10月末から、青森・ソウル線が、これまでの週3往復から、就航以来初の週5往復に増便、また、11月から台湾との定期チャーター便も就航することから、引き続き、外国人観光客の拡大に取り組まれます。

その4
地域資源を活用したライフ分野等の
新産業の創出・育成

商品数や
製造出荷額が
順調に増加



※アンケート調査により回答があった県内・県外企業について集計 (各年8または9月)。商品数は最終製品を対象。資料：商工労働部

県では、ライフ（医療・健康・福祉）分野の成長産業創出や創業・起業支援による新たな産業・事業の創出を進めています。ライフ分野は、弘前大学が中心に進めている研究開発の拠点があるほか、医療機器関連や健康食品・化粧品等の分野でも取組の広がりが見られるなど成長産業としてのポテンシャルが高く、青森県の地域特性や強みを最大限生かすことで、県外からの外貨獲得や雇用創出が期待される分野と捉えています。

例えば、医療機器生産額を見ると平成18年は147億円だったものが、平成26年には512億円まで増加しているほか、医療現場ともぐくり企業の連携が進み、医工連携分野への県内企業の参入が拡大しています。

このほか、コラーゲンやヒアルロン酸とともに肌や軟骨を支える成分であるプロテオグリカンを



また、県内の創業支援拠点の整備等を進めた結果、拠点を利した創業者数が年々増え、平成28年度は110件のチャレンジが生まれています。

10月

人口減少克服
～ポイントは、「経済を回す」～
関連番組 放送予定

◎青森テレビ「みんなの県庁！」
10月7日(土) 16:55～17:00

◎青森朝日放送「メッセージ」
10月7日(土) 9:30～9:35

「高品質な県産品づくり」と「販売力の強化」で、地元定着を増やす！



【インタビュー】
津軽みらい農協 特米米プレミアム研究会
会員 横山 英樹 さん

**消費者ニーズに耳を傾け
売れる＆稼げる米作りを目指す！**

藤崎町常盤地域では、古くから地域ぐるみで有機栽培や減農薬栽培による米作りを取り組んできました。味や品質には自信があったのですが、青森米の知名度が低いことから、東京で「つがるロマン」の試食販売を行っても「え？青森でもお米を作っているの？」と、驚かれる始末。何度も悔しい思いをしました。

3年前から「青天の霹靂」の栽培を行っています。知事、各団体によるPR、そして何より県民の皆さんが応援してくれておかげで評判は上々。「青森のお米はおいしい」と全国の消費者に知ってもらえるきっかけとなり、青森米全体を牽引してくれています。

「農薬・化学肥料を減らしたお米も作ってほしい」という



【インタビュー】
小川原湖漁業協同組合
会計主任 細井 崇 さん

**小川原湖のシラウオを初輸出
産地視察で西日本にも販路拡大！**

小川原湖は、日本一の水揚げを誇るシラウオやワカサギをはじめ、ヤマトシジミ、モクズガニなど水産資源が豊富で、「宝湖」と呼ばれています。

シラウオは高級食材ですが、鮮度が落ちやすいため、平成25年、三八地域県民局八戸水産事務所、地方独立行政法人青森県産業技術センター食品総合研究所などのアドバイザーを受け、急速冷凍技術を確立。解凍すれば水揚げ直後の歯応えや風味が楽しめる逸品です。

平成28年に香港の総合食品見本市に出展したのを機に香港の中華料理店「聘珍樓」との取引が決まり、「A! Premium」を活用して冷凍シラウオを輸出しています。翌日には香港に到着するた



りんご畑で農家自らシードル作り
先人からのバトンを未来へつなぐ

29歳の時、東京からUターンし家業を継いでりんご栽培を始めました。りんご農家の後継者不足に危機感を覚えていた矢先の平成20年、津軽のりんごは雹被害で打撃を受けました。その時、いかにりんごが地域の産業や文化を支えているかを痛感したんです。そこで、りんご産業について語り合う場の必要性を感じ、りんご農家自らシードルを作りシードル片手にりんごの木の下で語り合うプロジェクトの構想が生まれました。

地方独立行政法人青森県産業技術センター弘前地域研究所で5年にわたり醸造技術の指導を受けた後、若手農業トップランナー塾で学びました。平成26年に弘前市りんご公園内にオープンした「弘



【インタビュー】
弘前シードル工房 kimori
代表 高橋 哲史 さん



前シードル工房 kimori では、6種類のシードルを製造し、年間2万本を出荷。無濾過製法なので果実の風味が生きており、青森の食とも相性抜群です！

kimori やりんご畑を会場にした食やクラフト、音楽などのイベントも好評で、若い世代の青森ファンも増えています。後継者問題は一朝一夕に解決できるものではありませんが、この場所がりんごの未来を考えるきっかけになればと思っています。

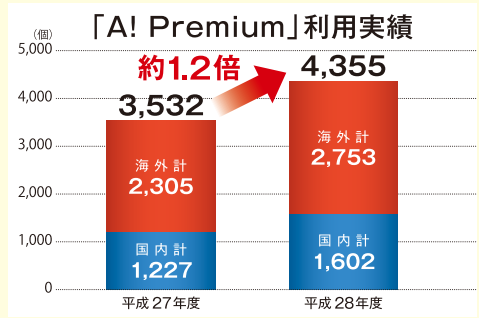


A! Premium で販路拡大 青森の美味しいものを、国内外の飲食店等に直接お届け

「A! Premium (エープレミアム)」は、県とヤマト運輸株式会社の連携により提供している流通サービスで、このサービスの活用により、これまで県産品が流通する機会の少なかった西日本やアジア圏などへ、青森の美味しいものを新鮮な状態で届けることができるようになりました。

この「A! Premium」が始まって3年半。取扱荷物の実績も順調に伸びており、ますます国内外の販路が拡大しています。

「A! Premium」はサービス開始当初から「鮮魚」の輸送実績が多いのですが、青森の新鮮でおいしい「鮮魚」の取扱を契機に、取引先の国内外の飲食店等から「魚だけ



なく、肉や野菜など、他の県産品もほしい」とのお声をいただく場面が増え、いまや「A! Premium」を契機とした取引は、「野菜」や「果物」、「畜産品」、そして「加工品」へと、どんどん拡大しています。

「A! Premium」で県産品を
おいしさそのまま、国内外へ!!



【インタビュー】
合同会社ひろくまマーケット
代表社員 高橋 信勝 さん

**青森の豊かな自然が育む食材は
香港にも高鮮度輸送、好評です**

今年6月、初めて青森を訪問したのですが、青森の空気と水のおいしさに大変驚きました。この豊かな自然に育まれた食材はどれも素晴らしい、新鮮さと芳醇な香り、素材の甘さが強く印象に残りましたので、これらを香港にも広めたいと考えました。

そこで7月、香港の中華料理界のシエラ50名ほどを集め、青森の食材を使った中華料理の試食会を開催しました。青森の食材は非常に好評で、特に「青森ほたて」や「野辺地葉つきこかぶ」などの生鮮食



【インタビュー】
中国飲食文化大師
(中華料理調理師界のトップ)
Wan Tak Kong
(尹達剛) さん

材は、「A! Premium」で香港にも高鮮度な状態で届きます。香港でも十分通用する高いポテンシャルを持っていると思います。

青森には我々が知らない素晴らしい食材がまだまだたくさんあると思います。近いうちに再び青森を訪れ、青森の食材をもっともっと、香港に紹介していきたいと考えています。

**収穫翌日到着で鮮度抜群！
西日本でも大人気の県産野菜**

私たちは、県内の約140軒の農家から直接仕入れた野菜を店頭やインターネットで販売しています。農家のこだわりや想いを代弁し、消費者と橋渡しをする、いわば「野菜の販売代理店」です。

現在、「A! Premium」を活用し、京都、大阪、名古屋、神戸、福岡、広島など約20店の飲食店とお取引しています。収穫翌日には届くため、農家も私たちも安心ですし、飲食店側にとっても付加価値を高めやすいというメリットがあります。



これからの季節は、雪室で貯蔵した野菜や果物もアピールしていきたいですね。雪のないエリアではとても珍重されるので、もしかしたら厄介者の雪が外貨を稼いでくれるかもしれない。青森の野菜は高いポテンシャルを持っているので、今後もどんどん魅力を発信し、香港やシンガポールにも輸出できるように取り組んでいきたいです。

旬を食べよう。

あおもり食材で 簡単ヘルシークッキング

八戸前沖さば編



11月1日から30日には、八戸市内で「八戸前沖さばまつり」が開催され、バリエーション豊富なさば料理の提供やお土産品の販売、魚市場や水産加工工場の見学会などが行われます。ここ1、2年サイズが小型だったものの、今年は一回り大きなさばが堪能できますので、ぜひ八戸にいらして味わってください！

脂乗り抜群、うま味が違う！
八戸前沖さば



「八戸前沖さばブランド推進協議会」
会長 武輪 俊彦 さん

「八戸前沖さば」とは、八戸前沖さばブランド推進協議会が認定した期間に三陸沖以北の日本近海で漁獲し、八戸港に水揚げされたさばのことです。本州最北のさばの漁場である八戸前沖では、秋になると急激に下がる海水温や豊富なえさのおかげで、粗脂肪分を蓄えた脂乗り抜群のさばが水揚げされます。
毎年シーズンには、八戸前沖さば料理提供店で焼き物、しめさば、しゃぶしゃぶ、漬け丼、さばだしせんべい汁など各店が腕によりをかけたメニューを楽しめます。

八戸前沖さば丼

【一人分のエネルギー：604kcal／塩分2.4g】

〈材料：4人分〉

- 前沖さば……………1尾
- 生姜すりおろし……少々
- かたくり粉……………適宜
- 揚げ油……………適宜
- しょうゆ……………大2
- みりん……………大2
- ウスターソース……大2
- はちみつ……………大1
- 酢……………大1
- 粗びきこしょう……少々
- ねぎ(白い部分)……30g
- 青じそ……………4枚
- 米……………2カップ
- 白ごま……………少々
- ピンクペッパー……少々



- 〈作り方〉
- ① さばを三枚におろし、中骨を取り、一口大に切ったら、生姜のすりおろしと混ぜる。
 - ② ねぎは、千切りにし流水で洗い、青じそは、千切りにして水につける。
 - ③ ①にかたくり粉をまぶし、中温の揚げ油でカリッと揚げる。
 - ④ フライパンに④を加え、強火でとろみがつくまで煮つめる。
 - ⑤ どんぶりにご飯を盛り、④のタレを少々混ぜ、白ごまをふりかける。
 - ⑥ ③に④のタレをからめたら、⑤にのせ、②とピンクペッパーを散らす。
(ピンクペッパーがない場合、粗びきこしょうでもOK)

るみ子先生のワンポイントアドバイス

ウスターソースを使用することで、野菜の甘みが凝縮されたタレに仕上がります。また、さばの血合いは、骨ごと砕き、団子状にしたものにかたくり粉をまぶして、色づくまで揚げると臭みが気になりません。

レシピ開発・調理／管理栄養士 福土るみ子



私が出会った 青森のイッピン

vol. 9
前川國男建築

使い続けられる、風通しの良い建築

私をはじめ前川國男の建築を意識したのは、以前住んでいた東京都杉並区の自宅近くにあった阿佐ヶ谷住宅のテラスハウスだった。阿佐ヶ谷住宅は中層住宅とテラスハウスからなる住宅地だが、豊かな緑の中に余裕をもって配置されたテラスハウスは、時代と住人の変化に合わせて手を加えられながらも、モダンな雰囲気の残る住宅だった。



お話を伺った葛西ひろみさん

お話を伺った「前川國男の建物を大切に作る会」の葛西さんが「前川建築は、使われ、変化してゆく建築」と話してくれたとき、まず阿佐ヶ谷住宅を思い出したが、今回の撮影で訪れた木村産業研究所

前川が「そこでコーヒーを飲みたい」と、語ったといわれる市民会館のテラスに立つて、盛夏には涼しすぎる風を感じながら、気持ち良く撮影をすることができた。



木村産業研究所 玄関吹き抜けの天井



弘前市民会館 2階ホワイエのシャンデリア

本誌題字タイトル／「青森きらりイッピン」ロゴタイトル



書家
菊池 錦子 KINKO KIKUCHI
【プロフィール】
青森県弘前市出身
個展で書を発表しているほか、自身の書と写真で綴った「ゆりかごII」の出版、NHK大河ドラマ「篤姫」・「江～姫たちの戦国～」の題字をはじめ、映像・イベントなどのタイトルや社名、商品名など多方面にわたって数多くの筆文字のロゴも手掛けている。

表紙撮影／「青森きらりイッピン」取材撮影・文



カメラマン
望月 研 Ken Mochizuki
【プロフィール】
山梨県出身宮城県在住。1998年東京外国語大学ビルマ語学科卒業。NHKの番組ディレクターを経て、カメラマンに転職。アシスタントを経てフリーとなり、2012年仙台に拠点を移す。ファッション・ポートレイトをメインに、建築や料理撮影など活動の幅は広く、空間のもつ色彩やスケールを、その撮影目的の世界観で写真に定着する。

「青森きらりイッピン」動画コンテンツを配信しています。青森が誇る「ヒト」、「モノ」、「コト」を紹介する動画コンテンツ「青森きらりイッピン」を、YouTube、Facebookで配信しています。スマートフォン、パソコンで「青森きらりイッピン」を検索してご覧ください。「青森きらりイッピン」の紹介ホームページはこちら http://www.pref.aomori.lg.jp/koho/tv/int_kirari.html

いいぞ! 「木」の地産地消!

林政課 伊藤 快

取組紹介

私は、青森県産木材の魅力を発信する仕事に携わっています。

本県の森林資源は、全国第4位の人工林面積を誇るスギをはじめ、アカマツ、ヒバなど、戦後、先人たちが木を植え、下刈りや間伐などの手入れを営々と積み重ねてきた結果、十分に成熟し、本格的な利用期を迎えています。このような、本県の豊かな森林資源を、私たち県民が積極的に利用していくことが重要となっています。

そのため、県では今年度、県民の皆さまに県産材を住宅などに積極的に利用していただくため、次のような地産地消の取組を進めています。

取組1 「あおり産木材 地産地消ガイドブック」の作成

県内の消費者の皆さまへ県産材の良さを情報発信するため、地元工務店や建具店、設計事務所、林業・木材産業関係者等の地産地消に対する取組を紹介するガイドブックを作成し、銀行や書店などに無料配布します。(平成30年3月予定)

取組2 県産材PRブースの出展

県内外の消費者の皆さまを対象に、広く県産材の特徴などを知っていただくため、各種イベントや展示会に県産材PRブースを出展し積極的に売り込んでいます。

業務にかける思い

私は、森林資源が充実した今がまさしく、本県の林業・木材産業の成長産業化を図っていく絶好のチャンスだと捉えています。

また、『青森の木を青森で使う』ことで、森林の整備が進み、手入れのされた健全な森林は、洪水や土砂災害を防止して県民の生命や財産

を守るほか、安全安心な農産物を育む良好な水循環の構築、質の良い林産物の産出、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止などにつながります。

私たち県民の暮らしや産業を守るかけがえない森林の恩恵を、次世代へ継承していくため、これからも県産材の魅力を全力でPRしていきます!

◎詳しくは、県庁HP [県産材](#)
林政課 ☎017-734-9517



伊藤 快 / 農学系の大学から林業職へ飛び込み早や6か月。まだまだ勉強中ですが、学生時代の野球で鍛えた体力と根性で、今日も全力投球!



県外出展ブースで青森県産材を売り込み



林業PRのためチェーンソーアート修行中

青森県量子科学センターが10月1日に開設します!

県では、原子力関連施設の立地環境を活かし、原子力を含む量子科学分野の人材育成、研究開発に積極的に貢献するため、その活動の拠点となる青森県量子科学センターを六ヶ所村弥栄平地区に開設します。

■当センターの目指すもの

産業界、教育・研究機関、国、自治体等関係機関の積極的な参画、共同利用を促進しながら人材育成、研究開発活動を展開していくことにより、原子力関連施設の安全確保や雇用促進、新たな産業の創出などが期待され、本県の人づくり、産業づくりにつなげていきます。

■基本方針

- ・現場実習を特色とした人材育成活動の展開
- ・放射線、量子ビームを利用した研究開発活動の展開
- ・人材育成と研究開発の一体的推進
- ・産業化のための産学連携活動の促進
- ・施設の利用促進と魅力ある施設づくり

■施設概要

研修棟	研修室、研究員室、宿泊室、産学連携室等
研究棟	化学・薬学・検出器開発・材料の実験室、分析室等
R I 棟	サイクロトロン室、薬剤合成室、PET/CT室、小動物PET/MRI室、中性子実験室、化学実験室等



◎詳しくは、県庁HP [量子科学センター](#)
量子科学センター ☎0175-72-1270

参加事業所募集中! 10月はスマートムーブ通勤月間

県では、自動車からの二酸化炭素(CO₂)排出量削減に向けて、今年度から「スマートムーブ通勤月間」を実施します。

スマートムーブとは、「積極的に公共交通機関を利用する」「近い場所へは徒歩や自転車で移動する」「エコドライブを実践する」など、状況に応じたエコな移動方法を賢く選択することです。

10月はできるだけ環境に優しい通勤方法を選択して、自動車からのCO₂削減にチャレンジしませんか?

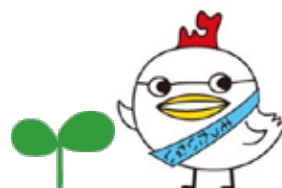
■スマートムーブ通勤の実施方法

マイカー通勤の方は、10月中、①と②の取組を積極的に実践しましょう!

- 1 マイカー通勤の方で、公共交通機関(電車・バス)、徒歩、自転車への転換が可能な方はノーマイカーで!
- 2 マイカー通勤以外の通勤方法がない方は、燃費向上・安全運転にもつながるエコドライブで!
- 3 普段から公共交通機関(電車・バス)、徒歩、自転車で通勤している方はそのままスマートムーブ!

「移動」を「エコ」に。

smart
move



もったいない・あおり
県民運動キャラクター
「エコちゃん」

また、県では、スマートムーブ通勤月間の参加事業所を募集しています。優れた取組の事業所を「スマートムーブ通勤アワード」で表彰し県庁HP等で広くPRしますので、ぜひご参加ください!

◎詳しくは、県庁HP [スマートムーブ](#)
環境政策課 ☎017-734-9243

申吾の(ほっと)コラム

「A!Premium」快進撃

青森県知事 三村 申吾

県土整備部が、熱い仕事を実践している。部としては、担当する「青森県ロジスティクス戦略」に位置づけた「農林水産品の流通拡大に向けた輸送プラットフォームの構築」を具体化しているだけです、と言うかもしれないが、本県が全国に先駆けて生み出した「A!Premium(エープレミアム。以下、エープレ)」の出口(販路)を、農林水産部や観光国際戦略局、県外事務所等とのがっちりとしたチームワークで、国内外で強烈に開拓し続けている。

国外としては、香港での躍進が著しい。

自分もこの7月に同行して驚いた。我がチームは、強固な信頼関係の下、香港最大手の外食企業グループにおける青森県フェア開催にこぎつけており、今回のプロモーションイベントには多くのメディアや旅行社が参加した。

また、先日、国内外に約150の教室を有する有名クッキングスクールとの食を通じた情報発信等の共同プロジェクト宣言を行ったのだが、その一環として、香港教室では自分も講師と共に、エープレで運んだ、動いている活帆立貝をむいての“調理実習”。これも香港メディアを大いに賑わした。

最近の国内での最も画期的な成果は、まだエープレシステムが良く知られてい

ない西日本における一大拠点の確保である。

エープレシステムとこれに関わる青森県の生産者や県庁チームと意気投合した、関西で多くの飲食店を展開するオーナーが、関西一、二の活気溢れる街神戸三宮に「青森ねぶたワールド」をオープンして下さるに至った。ここを今や西日本の灯台として、青森産品とエープレシステム、併せて観光のPRの発信があまねく進められている。

「青森ねぶたワールド」を訪れたお客様は、エープレだから出来た、青森産品のフレッシュさ(何しろ活きている、動いている)、そして、魚介類から肉類から野菜類からの品揃えの豊富さ美味しさに感動すると共に、エープレゆえのリーズナブルな価格設定に感激してくださっている。しかも、18メーカーの県産酒まで飲めるとあっては、“わいは”状態、連日大盛況。エープレ部分だけで、月間3ケタに迫るボックス取扱量となっている。

ローカルtoローカル。ローカルtoワールド(青森から全国各地へ、青森から世界へ)。

エープレの快進撃は、青森県経済をしっかりと強く熱く回しつつある。

AOMORI information

あomorいんフォメーション

合同進学相談会開催のお知らせ

県内の高校生及びその保護者等を対象に、県内の大学・専修学校等の魅力や情報等を発信する、合同進学相談会を開催します。

開催日	10月31日(火) ねぶたの家ワ・ラッセ[青森]	入場無料 当日参加OK
	11月 7日(火) むつ来さまい館[むつ]	
	11月13日(月) ユートリー[八戸]	
	11月15日(水) 弘前文化センター[弘前]	

詳しくは、[あomorいんキャンパス LIFE](#) 総務学事課 ☎017-734-9869

マイナンバー制度の情報連携が始まります!



面倒な行政手続きがカンタンに!

行政機関同士が、専用のネットワークシステムで情報をやりとりする情報連携が本格化することで、これまで申請等の手続きに必要な添付書類が省略されるようになります。
※添付書類の省略の詳細は、手続きによって異なります。

マイナポータルでもっと便利に!

個人向けポータルサイト・マイナポータルでは、行政が保有するあなたの情報や行政機関同士があなたの情報を受け渡したやりとり履歴を確認できるので安心です。また子育て関連のオンライン申請などが利用できるようになります。※サービスの内容は、自治体によって異なります。

詳しくは、[マイナンバー 情報連携](#) または [マイナンバー マイナポータル](#)

情報システム課 ☎017-734-9163



おかげさまで、青い森鉄道線 目時～八戸間開業15周年「青い森鉄道まつり2017」開催!

日頃の感謝の気持ちを込め、普段は入ることができない車両基地を一般開放します!

- ◎日時: 10月15日(日) 10:00~15:00(入場無料)
- ◎場所: 青い森鉄道 運輸・設備管理所(青森市大字大野字北片岡無番地: 青森中央大橋下)
- ◎内容: 体験イベント、展示コーナーなど
- ◎アクセス: 青森駅と会場を結ぶアクセス列車、会場内駐車場あり

詳しくは、[青い森鉄道まつり2017](#)
青い森鉄道株式会社 ☎017-752-0330



特殊詐欺に注意しよう

県内ではプリペイドカード(電子マネー)を悪用した架空請求詐欺が増加しています。特に10代から50代の幅広い年齢層で被害が見られます。その手口は、サイトの未納料金などがあるという、プリペイドカードを購入させ、カードの裏面に記載の番号を聞き出し、額面分のカード利用権をだまし取るというものです。

■特殊詐欺認知状況

	平成28年	平成28年上半年	平成29年上半年
認知件数	68件	30件	32件
被害金額	約2億300万円	約1億2500万円	約5000万円
高齢者の割合	63.2%	66.7%	28.1%



被害に遭わないために ①未納料金を通知するメールの電話番号に連絡しない! ②警察安全相談電話(#9110)へ相談!

警察本部生活安全企画課 ☎017-723-4211

みなさんと県庁を結ぶ 県政インフォメーション

- テレビ
- RAB[LINK/青森県](30秒スポット)
 - RAB[大好き、青森県。](第三日曜日)17:00~17:15 (放送週が変更になることがあります)
 - ATV[みんなの県庁!](土)16:55~17:00
 - ABA[メッセージ](土)9:30~9:35

ラジオ

- RAB[青森県広報タイム](月)~(木)7:30~7:35
- エフエム青森[あomorい・ふあん](月)~(金)16:55~17:00
- エフエム青森[申吾の(ほっと)チャンネル](第一日曜日)7:00~7:30

新聞

- 「広報あomorいけん」毎月1日・16日
- 東奥日報・デーリー東北・陸奥新報

- 青森県広報広聴課公式Facebook (<https://www.facebook.com/AomoriPref.koho>)
- 青森県庁Twitterアカウント (@AomoriPref)
- 青森県広報広聴課Twitterアカウント (@aomorist)

編集発行/青森県広報広聴課 ☎017-734-9137

〒030-8570 青森市長島1-1-1/県のホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/>
※「県民だよりあomorい」は点字版・録音版も発行しています。ご希望の方は広報広聴課までお知らせください。

この印刷物は527,000部作成し、印刷経費は1部当たり9.2円です。